

具体的対応方針の再検証の検討結果について

医療機関名 独立行政法人地域医療機能推進機構 秋田病院

1	2025年を見据えたダウンサイジングや病床の機能分化・連携等の対応方針										
	(対応あり) (対応なし) (検討中)										
2	現在の地域における急性期機能や、将来の人口推移とそれに伴う医療需要の変化等の医療機関を取り巻く環境を踏まえた、2025年を見据えた自医療機関の役割										
	<p>当院は、「(B)類似かつ近接の6領域全てに該当している再検証対象医療機関」で、自医療機関の役割等に係る具体的対応方針の再検証の要請を受けて検討したが、この内、救急対応については、救急車の受け入れについては、市内3病院の総受け入れ台数2,819台中(能代山本広域市町村圏組合消防本部資料-平成30年)504台(17.9%)の受け入れを行い(A病院 1,920台(68.1%)B病院 395台(14.0%))、また、2次救急医療機関として週1回の輪番に参加している。</p> <p>これらの救急の受け入れや、高齢者特有の骨粗鬆症に起因する骨折の治療など、地域において最も症例の多い整形外科領域に対応するため、引き続き急性期病床が必要である。</p>										
3	分析対象とした領域ごとの医療機能の方向性(他の医療機関との機能統合や連携、機能縮小等)										
	<p>地域における高齢者の様々な疾患に対応し、QOLの維持・向上を重視し、平成28年4月に、8床を、地域包括ケア病床に病床機能変更した。また、回復期機能の病床の重要性から、平成31年4月に4床増床し、令和2年4月にさらに8床増床し、20床とする。</p> <p>また、令和2年4月から、将来的な医療需要などを見据え、4減床し合計163床とする。</p>										
4	2・3を踏まえた病床4機能の病床数の変動										
	○2020.1.1現在										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>155床</td> <td>12床</td> <td></td> <td>167床</td> </tr> </tbody> </table>	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計		155床	12床		167床
高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計							
	155床	12床		167床							
	○2025年の病床数										
	<table border="1"> <thead> <tr> <th>高度急性期</th> <th>急性期</th> <th>回復期</th> <th>慢性期</th> <th>合計</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td></td> <td>143床</td> <td>20床</td> <td></td> <td>163床</td> </tr> </tbody> </table>	高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計		143床	20床		163床
高度急性期	急性期	回復期	慢性期	合計							
	143床	20床		163床							
	○病床数の変動内容										
	地域包括ケア病床をさらに8床増やし、20床とする。また、狭隘な病室4室を1床ずつ減床し、計4床減床する。										
5	医療介護基金や新たなダウンサイジング支援の活用										
	(活用する) (活用しない) (検討中)										
	○活用内容の概要										
	回復期病床への転換にあたり、必要となる施設・設備整備への活用など										